

第74回 全国植樹祭 基本構想



令和2年4月改定

第74回全国植樹祭岡山県準備委員会



目次

第1章 はじめに	
1 基本構想策定の趣旨	1
2 全国植樹祭とは	2
3 岡山県における全国植樹祭の開催状況	3
第2章 開催方針	
1 開催理念	4
2 岡山県の特徴を活かした大会の基本方針	4
3 大会テーマ	5
4 シンボルマーク・大会ポスター原画	5
5 開催会場	5
6 開催規模	6
7 開催時期	6
8 企業協賛等	6
第3章 式典行事	
1 基本的な考え方	7
2 式典構成	7
3 式典運営	7
第4章 植樹行事	
1 基本的な考え方	8
2 お手植え、お手播き	8
3 記念植樹	8
第5章 会場整備等	
1 基本的な考え方	9
2 会場整備	9
3 交通・宿泊等	10
第6章 記念事業等	
1 基本的な考え方	11
2 記念事業	11
3 関連事業	11
4 広報活動	11
第7章 運営方針等	
1 基本的な考え方	12
2 実施組織	12
3 開催準備スケジュール（想定）	12
<参考資料>	13

第1章 はじめに

1 基本構想策定の趣旨

本県は、温暖な気候と自然環境に恵まれた「晴れの国」であり、中国山地に源を発する3つの河川（吉井川、旭川、高梁川）は、良質で豊かな水を常にたたえており、県北部には緑豊かな中国山地、南部には多島美に恵まれ美しく穏やかな瀬戸内海が広がっていることから、多様で身近な自然と触れ合いながら、潤い豊かな生活を送ることができる地域です。また、古くから中四国地方の交通の要衝であった本県は、瀬戸大橋をはじめとする縦横に延びる高速道路網や新幹線をはじめとした鉄道網など、全国でもまれに見る交通基盤が充実した地域であり、世界を視野に入れた陸海空の広域交通網のクロスポイントとなっています。

県内には、水島コンビナートや地場企業など「ものづくり」をはじめとした優れた産業が集積している一方、温暖な気候と高度な生産技術を生かし、全国有数の質の高い農業が営まれています。中でも、全国一の生産量と品質を誇る清水白桃、マスカットをはじめ、多彩で個性豊かな「くだもの王国おかやま」が形成されています。

また、吉備文化を伝える数多くの史跡、千年の歴史を誇る備前焼、備中神楽に代表される伝統芸能など、長い歴史に支えられた個性豊かな地域文化が育まれるとともに、岡山後楽園、倉敷美観地区、蒜山高原などの魅力ある観光資源をはじめ、教育環境や医療環境にも恵まれており、新しい時代の潮流や変化を踏まえて、さらなる発展の可能性を有しています。

さらに、太古から丈夫な木材として重宝されてきたヒノキが、奈良時代に美作国から平城宮に送られたことを記した木簡が出土していることから、本県では古くからヒノキの生産が行われていたことがうかがえます。ヒノキ生産量日本一の「ひのき王国おかやま」である本県では、県土の約7割を森林が占めており、循環資源である木材・木質バイオマスの利用促進、全国初のCLT（直交集成材）の量産工場の稼働など、豊富な森林資源を「伐って・使って・植えて・育てる」林業サイクルの活性化を図ることにより、林業の成長産業化の実現に向けた取組を進めています。

こうした中、令和5年(2023年)に、第74回全国植樹祭が本県で開催されることが内定しました。本県での開催は、昭和42年(1967年)以来、56年ぶり、2回目となります。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月、開催が令和5年から1年延期の令和6年(57年ぶり)となることが決定されました。

この基本構想は、第74回全国植樹祭を通じて、本県の魅力を全国に発信する絶好の機会とし、岡山県ならではの特色ある有意義な大会となるよう、開催理念や開催内容などの基本的事項を定めるものです。

2 全国植樹祭とは

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県の共催により開催する国土緑化運動の中心的行事です。

昭和25年(1950年)に「第1回植樹行事並びに国土緑化大会（第21回大会からは「全国植樹祭」が正式名称）」として山梨県甲府市で開催されて以来、各都道府県において毎年春季に開催されています。

これまでの大会では、天皇皇后両陛下の御臨席を賜るとともに、県内外から多くの参加者を迎え、式典行事や記念植樹が行われています。



天皇陛下のおことば



式典アトラクションの様子



おもてなし広場の様子

写真：愛知県提供

3 岡山県における全国植樹祭の開催状況

昭和42年(1967年)4月9日、金山山頂（岡山市）において、天皇皇后両陛下をお迎えし、「拡大造林と環境緑化」を大会テーマに、第18回全国植樹祭を開催しました。

当日は、あいにくの荒天となり、開催規模を約200人に縮小（晴天時は13,000人を予定）して実施されました。会場のテントの中で、両陛下はアカマツを鉢にお手植えになりました。

また、翌4月10日、蒜山地域（旧真庭郡川上村）において、天皇陛下はアカマツを、皇后陛下はヒノキをお手播きになりました。



アカマツをお手植えされる天皇皇后両陛下（岡山市）



お手植え苗木移植式
（4月17日 岡山市）



両陛下お手植えの苗木の移植
（4月17日 池田厚子さん）



お手播きされる天皇皇后両陛下（蒜山地域）
（天皇陛下：アカマツ、皇后陛下：ヒノキ）

第2章 開催方針

1 開催理念

私たちは、第74回全国植樹祭の開催を通じて、「豊富な森林資源の循環利用」を進めるとともに、森林の持つ公益的機能の確保に努めます。

また、県民一人ひとりのさらなる緑化意識の向上を図り、豊かな自然を守り育てるための県民運動を拡大する契機とし、緑あふれる郷土を未来の子どもたちへつないでまいります。併せて、本県の歴史・文化など数多くの魅力を全国に発信します。

2 岡山県の特徴を活かした大会の基本方針

(1) 未来に向けて多様で豊かな森林を守り育て、人と森林の理想的なかかわりへつなげていく大会

○ 豊富な森林資源の循環利用による林業の成長産業化の実現に向けて、「伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルを活性化させるとともに、少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えや木材・木質バイオマスの利用を通じて、森林の公益的機能の確保を図ります。

○ 環境問題への関心の高まりから、県内各地で、森林保全活動に取り組むボランティア団体や企業等が増えています。今後、全国植樹祭に向け、より多くの県民の皆様に参加いただきながら開催の機運を盛り上げてまいります。

また、この大会を契機として、緑化意識の向上を図り、豊かな森林の緑をよりよい姿で将来へ引き継いでいきます。

(2) 岡山県の豊かな自然や歴史・文化等の魅力発信

○ 中国山地、瀬戸内海、三大河川など多彩で豊かな自然や、本県の気候風土に育まれた歴史・文化など数多くの魅力を全国に発信します。

○ 県外から訪れる多くの参加者に対して、関係者はもとより県民全体で「おもてなしの心」で対応し、岡山県にまた来たいと思われるような「温かみ」のある大会とします。

3 大会テーマ

第74回全国植樹祭の開催理念をあらわし、開催機運を高めるような「大会テーマ」を選定します。

4 シンボルマーク・大会ポスター原画

第74回全国植樹祭の開催機運を高めるような「シンボルマーク」を既存キャラクターの活用なども含め作成するとともに、「大会ポスター原画」を県内の小中高校生等から募集し選定します。

5 開催会場

(1) 式典会場

式典会場では、式典行事、天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き行事を実施します。また、各種の展示PR等を行うおもてなし広場を隣接地に設定し、参加者を歓迎します。

〔開催候補地〕 岡山県総合グラウンド（ジップアリーナ岡山）

屋内施設であるため、荒天時の式典会場は別に設けません。



式典会場イメージ



ジップアリーナ岡山（岡山県総合グラウンド）

(2) 植樹会場

県内外の参加者が記念植樹を行う植樹会場として、式典会場内や近隣地をはじめ、県内各地への設置を検討します。

※植樹会場は、「基本計画」を策定する中で検討します。

(3) サテライト会場、PR会場等

より多くの県民の皆様と開催理念を共有し、全国植樹祭の開催効果を高めるためサテライト会場やPR会場などを県内に設置することを検討します。

※サテライト会場やPR会場等の設置は、「基本計画」を策定する中で検討します。



式典生中継（サテライト会場）



苗木の無料配布（サテライト会場）

写真：愛知県提供

6 開催規模

第74回全国植樹祭は、県内外から参加する招待者、協力者・スタッフ等を含め、4,000人程度の規模で開催します。

7 開催時期

第74回全国植樹祭は、令和6年（2024年）春季に開催します。

8 企業協賛等

第74回全国植樹祭の趣旨に賛同をいただける企業等から協賛を仰ぎ、大会内容の充実に努めるとともに、開催機運を高めます。

第3章 式典行事

1 基本的な考え方

式典行事は、次の事項を基本とし、具体的な内容は、「基本計画」を策定する中で検討します。

- (1) 参加者が開催理念を共有するとともに、心に残る内容の植樹祭とします。
- (2) 式典は、簡素化を図りながらも、厳粛で品格があるものとします。
- (3) 県内外から、若い世代、高齢者、障がいのある人等できる限り多くの皆様や大会に賛同いただいた企業、団体等が参加できるよう配慮します。

2 式典構成

式典の構成は、「プロローグ」「式典」「エピローグ」の3部構成とし、具体的な内容は、「基本計画」を策定する中で検討します。

- (1) プロローグ
 - ・参加者を歓迎する気持ちを表現する内容とします。
 - ・岡山県の豊かな自然や文化・歴史、森林・林業・木材産業の紹介等を行います。
- (2) 式典
 - ・天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き、国土緑化功労者等の各種表彰、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等を行います。
 - ・開催理念や大会テーマをわかりやすく表現するものとします。
- (3) エピローグ
 - ・参加者を歓送し、今後につながるメッセージを全国に発信する内容とします。

3 式典運営

式典運営は、次の事項を基本とし、岡山県らしさを感じていただける運営を行います。

- (1) 式典の運営は、参加者の安全性や快適性に十分配慮し、みどりの少年隊やボランティア等の協力を得ながら行います。
- (2) 司会者、アシスタント、式典音楽隊の出演者等については、地元団体をはじめ県内の関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成します。
- (3) 危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成し、研修を行います。
※危機管理については、「基本計画」を策定する中で検討します。

第4章 植樹行事

1 基本的な考え方

植樹行事は、次の事項を基本として実施し、具体的な内容は、「基本計画」を策定する中で検討します。

- (1) 将来目指すべき森林の姿をイメージした上で、本県の気候風土や地域の特性に適した樹種を選定します。
- (2) 植樹用の苗木は、県内で採取した種子等により育成したものをを使用することを基本とし検討します。
- (3) 県民の皆様との協働による森林づくり活動の拡大につなげていく契機とするため、できるだけ多くの皆様に参加していただけるよう配慮します。

2 お手植え、お手播き

- (1) 天皇皇后両陛下に、お手植え、お手播きを賜ります。その樹種については、本県の気候風土や地域の特性に適した樹種で、県民の皆様に親しみのあるものを選定します。
- (2) お手植えされた記念樹は、第74回全国植樹祭の開催を記念し、県土を育む豊かな森林づくりのシンボルとして大切に管理・育成していきます。
- (3) お手播きされた種子から養成した苗木は、岡山県が管理・育成し、県内の公共施設等に「記念樹」として配付します。



両陛下のお手植え・お手播き（第70回全国植樹祭〔愛知県〕）

写真：愛知県提供

3 記念植樹

記念植樹の実施方法、森林の姿や森林づくりの手法、樹種の選定等の詳細については、「基本計画」を策定する中で検討します。

1 基本的な考え方

会場整備等については次の事項を基本とし、具体的な内容は、「基本計画」を策定する中で検討します。

- (1) できる限り自然環境に負荷を与えないよう配慮するとともに、既存施設の活用など経費削減を図ることを基本とします。
- (2) 県産木材を積極的に使用します。

2 会場整備

- (1) 式典会場
 - ・会場レイアウトや構造物等については、安全性や機能性を考慮し、全ての参加者が安心して快適に参加できるよう配慮します。
- (2) 植樹会場
 - ・今後、「基本計画」を策定する中で検討します。
- (3) 駐車場、おもてなし広場
 - ・駐車場は、会場内または会場の近隣に確保します。
 - ・式典会場と隣接して「おもてなし広場」を設置し、参加者が安心して快適に過ごせるよう、総合案内所、湯茶接待所及び救護所を配置します。
 - 「おもてなし広場」は、岡山の森林づくり活動、観光や県産品等を参加者に広くPRするため、各種展示コーナーや観光案内、地場産物等を取り揃えた物産販売ブース等を関係団体の協力により設置・運営します。

3 交通・宿泊等

(1) 招待者の交通・宿泊

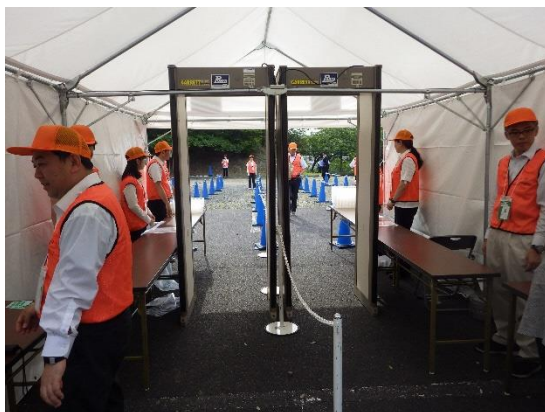
- ・ 式典前日、宿泊参加者（主に県外招待者）は、第74回全国植樹祭岡山県実行委員会（仮称）（以下「実行委員会」という。）が指定する県内の施設に宿泊することを原則とします。
- ・ 式典当日は、宿泊参加者は宿泊施設から、県内招待者等の当日参加者は県内各地に指定する集合地から、原則として実行委員会が手配するバス等により式典会場等へ移動することとします。
- ・ 宿泊施設の収容人数、宿泊料金、道路交通情報、送迎体制、式典終了後の視察ルート等を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- ・ 参加者等の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュール及び交通規制等について綿密な検討を行うとともに、添乗員の配置・案内等により快適な輸送体制を整えます。

(2) その他

- ・ 各会場周辺及びアクセス道路沿線の安全を確保し、万全な警備体制を構築します。
- ・ 関係市町村や県民の皆様と協力しながら、会場へのアクセス道路沿線の美化に努め、参加者を歓迎します。
- ・ 式典終了後、県外参加者の皆様に、本県の森林・林業・木材産業や、自然、文化、歴史に対する理解を深めていただけるような視察ルートを設定し、観光の振興を図ります。



宿泊施設での受付の様子



会場入口セキュリティゲートの様子

1 基本的な考え方

第74回全国植樹祭の開催理念を広めるとともに、森林づくりや木材利用の必要性について、県民の皆様に広く啓発するため、記念事業等を実施します。

なお、事業等の具体的な内容は、「基本計画」を策定する中で検討します。

2 記念事業

全国植樹祭の目的を達成するため、実行委員会等が実施します。

- (1) 開催前年のプレ植樹祭や緑化イベント等
- (2) 記録誌・記録映像の作成、記念切手の発行等

3 関連事業

全国植樹祭の併催行事として「全国林業後継者大会※」の開催を検討します。

また、全国植樹祭の関連事業としてふさわしい行事等を実施します。その実施会場は、主催団体と連携を取りながら設定します。

※「全国林業後継者大会」：全国の林業後継者が一堂に会し、森林を育む担い手として果たす役割等について意見を交わすことを目的として実施されています。（昭和45年から全国植樹祭の併催行事として開催）
主催：全国林業研究グループ連絡協議会、開催県林業研究グループ連絡協議会、開催県等
後援：林野庁、一般社団法人全国林業改良普及協会等

4 広報活動

全国植樹祭の開催理念や事業の展開について、広く普及・浸透を図るために、実行委員会等が実施します。

- (1) 新聞、ラジオ、テレビ等の多様な媒体を活用
- (2) 大会テーマ、大会ポスター原画、シンボルマークの活用
- (3) 第74回全国植樹祭専用ホームページの開設
- (4) 広報誌の発行 等

第7章 運営方針等

1 基本的な考え方

全国からの参加者を岡山県らしいおもてなしでお迎えし、開催の意義や理念を広く発信する場とします。

また、全国植樹祭の運営に当たっては、市町村、関係団体、NPO法人、ボランティア団体等との協力、連携を図りながら進めます。

なお、具体的な内容は、「基本計画」を策定する中で検討します。

2 実施組織

第74回全国植樹祭の開催に向けて、次の組織を設置します。

- (1) 第74回全国植樹祭岡山県実行委員会（仮称）（令和2年度設置予定）
【構成】会長：知事
委員：県内主要機関・団体の代表者等
【目的】基本計画、実施計画の策定等の総合的な企画・準備
- (2) 第74回全国植樹祭岡山県実施本部（仮称）（令和5年度設置予定）
【構成】本部長：知事
本部員：県職員、市町村職員、関係機関職員、関係者等
【目的】全国植樹祭の円滑な運営の実施

3 開催準備スケジュール（想定）

年度 区分	令和元年度 （開催5年前）	令和2年度 （開催4年前）	令和4年度 （開催2年前）	令和5年度 （開催1年前）	令和6年度 （開催年）春季	
主要な動き	◆開催申出 ◆開催県内定 ◆「基本構想」策定	◆開催県決定 ◆開催会場決定	◆「基本計画」承認	◆開催日決定 ◆「実施計画」承認	第74回全国植樹祭 開催	
大会実施 組織体制	準備委員会 （9月設置）	実行委員会				実施本部
決定事項	基本構想 ◇開催理念 ◇開催規模 ◇開催会場候補地 等	基本計画 ◇大会テーマ選定 ◇シンボルマーク選定 ◇大会ポスター原画選定 ◇式典等行事計画 ◇会場整備計画 ◇大会運営計画 ◇宿泊輸送計画 ◇広報・啓発計画 等		実施計画 ◇式典等行事詳細計画 ◇会場整備詳細計画 ◇大会運営詳細計画 ◇宿泊輸送詳細計画 ◇広報・啓発の実施 等 運営マニュアル		

第74回全国植樹祭岡山県準備委員会委員名簿

(敬称略) R2.3.25

区 分	所属・団体名	役 職	氏 名	備考
学識経験者 (2名)	中国学園大学・中国短期大学	学 長	千葉 喬三	副委員長
	岡山県立大学	理事長兼学長	沖 陽子	
緑化・林業 関係団体 (4名)	(公社)岡山県緑化推進協会	会 長	小野 泰弘	
	岡山県森林組合連合会	代表理事会長	井手紘一郎	
	(一社)岡山県木材組合連合会	会 長	田中 信行	
	岡山県山林種苗協同組合	理事長	難波 芳英	
各種団体 (4名)	岡山県商工会議所連合会	会 長	松田 久	
	岡山県商工会連合会	会 長	金谷 征正	
	(公社)岡山県観光連盟	会 長	岡崎 彬	
	(公社)岡山県文化連盟	会 長	若林 昭吾	
市町村 (2名)	岡山県市長会	会 長	片岡 聡一	
	岡山県町村会	会 長	山崎 親男	
県関係 (5名)	岡山県	副知事	佐藤 兼郎	委員長
	岡山県環境文化部	部 長	古南 篤子	副委員長
	岡山県産業労働部	部 長	小林 健二	
	岡山県農林水産部	部 長	伊藤 敦哉	
	岡山県警察本部警備部	部 長	津島 洋介	
合 計	17 名			

 お問い合わせ先

岡山県 環境文化部 自然環境課 全国植樹祭推進室

電話：086－226－7872

E-mail：syokujusai@pref.okayama.lg.jp

